

要領様式第2号

出張報告届

令和5年11月20日

吹田市議会議長様

会派名 立憲民主党

代表者氏名 西岡 友和

出張者氏名 西岡 友和

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	日経FORUM Super Active Ageing Society Conference (東京都千代田区内幸町 2-1-1)
期間	2023 年 11 月 20 日
出張の成果	別紙のとおり
備考	



2023 年 11 月 20 日

西岡 友和

高齢化社会は日本だけでなく、他の先進国でも共通の課題となっている。日本が抱える高齢化社会の課題を他の先進国と比較しながら詳しく学ぶ機会となった。

多くの先進国が高齢化社会に直面しており、これにより我が国の人口ピラミッドは、逆三角形に近い形となっている。日本はその中でも高齢者の割合が特に高い国の一つであり、これが主な労働力不足の原因となっている。一方、他の先進国も同様に、人口減少や高齢者比率の上昇による労働力不足が懸念されているが、日本の高齢化は特筆に値するというべきであり、最も深刻な国の一つである。

高齢者の増加は、慢性疾患や認知症などの疾患の増加につながり、医療サービスへの需要が高まり、社会保障費の増加を生む。日本では高度な医療技術や治療法が普及しているため、医療費の増大が特に深刻だ。予防医療や健康促進による対策が必要だが、その実現は極めて困難である。

高齢化に伴う課題として、介護労働者の不足は日本だけでなく、他の先進国でも深刻な問題となっている。高齢者の増加に伴い、介護の需要が急増しているが、これに対する適切な人材確保が難しい状況となっている。介護サービスの提供においては、家族が負担を強いられることもあり、ヤングケアラーなど、新しい課題も散見される。

また、健康で長生きであることによる課題としては、年金制度の持続可能性に懸念を抱いている。高齢者の増加により年金支給者が増え、これが年金制度に負担をかけ、財政的な持続可能性を確保するためには、年金受給時期の繰り上げと、定年制度の見直しが進められている。

一方、住宅・交通インフラの整備と地域社会の課題として、高齢者のモビリティや住環境への配慮は、多くの先進国で共通のテーマとなっている。バリアフリーな住宅や交通手段の整備が必要となるが、これらの整備が地域ごとに不均等である。地域社会全体での高齢者支援体制の整備が求められるが、過疎地においては福祉の担い手となる若者がいない。

高齢者の働き方や雇用環境の改善については、高齢者が健康な状態で働き続けることができるように、柔軟な働き方や再雇用制度、スキルの活用が必要となる。一方で、高齢者雇用の促進には企業の意識改革が欠かせない。この課題をクリアすることができれば、年金受給開始と定年制度の改革をもって乗り切ることができるだろう。特に日本ではこの方法が実際に調査、研究されている。

情報技術へのアクセスの格差の課題としては、多くの高齢者が若者のように容易にデジタルへのアクセスが出来ない。情報技術へのアクセスが限られていることが、高齢者の情報格差や社会参加の不均等を生み出し、デジタルネイティブと高齢者とでは大きく社会生活の質が事なる結果を生み出している。

今回のシンポジウムでは、現地における生の討論を通じ、質問やディスカッションなどにも参加ができる貴重な経験となった。現場には参考資料なパネル展示などもあり、特に日本がいかに高齢化社会の進んだ社会であるか、他国との比較資料は有益であった。

本市、吹田市においても高齢化問題は喫緊の課題となる。幸いにも、吹田市は人口増加率が全国中核市において一番であり、若い世帯の流入も多くみられる。

中核市として責任のある持続可能な街づくりについて、吹田市が取り組む方向をしっかりと検討すること。そして企業、自治体、学会などが連携して課題の取り組みを進めて行かなければならない。

以上